

転倒骨折をしない町づくり

(1)背景

転倒骨折は、事故であって、骨折の80%は、家庭内骨折であり、最も予防可能な疾患である。しかし、高齢者の増加やコロナ禍により生活不活発で転倒骨折が増加している可能性が高い。

(2)現状と問題点

地域では、いろいろな体操をはじめとして、取り組みも多いが、効果についての指標はない。転倒骨折が地域でどれだけ生じているのか把握もできていない。

(3)解決すべき課題

地域での転倒骨折を把握して、予防に対する対策を検討する。

- ①東区在住の要介護認定者から転倒骨折者数を、地域包括支援センター、居宅介護支援事業者より報告してもらう
- ②地域包括支援センターを単位として骨折者数の変化を把握して、地域と連携して、骨折及び再骨折の予防を行う。

令和4年11月8日

熊本託麻台リハビリテーション病院

平田 好文